

テキスト マタイによる福音書3章13～17節

〈洗礼とは〉

洗礼は罪が洗われたということの目に見える保証です。この洗礼という事実を通して、私たちの救いが、神の側から客観的に保証されており、ヨハネ福音書に「あなたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたを選んだのである」とあるまさにそのことを、私達は洗礼を通して目に見えるかたちで知ることができます。

〈14節～15節〉

主イエスは、ガリラヤ地方から、ヨハネのいる荒れ野に踏み込んで来られました。聖書には「それはヨハネから洗礼を受けるためである。」と書かれています。しかしこのことが、ヨハネにとっては予想外のことでした。この部分のこのやりとりは、四つある福音書の中でも、このマタイによる福音書の中にだけにしか出てきません。ですからそれだけ、福音書記者マタイは、主イエスがヨハネから洗礼を受けるということを、特別なこととして扱っています。救い主、神の御子であり、悔い改めと洗礼を必要とする罪人ではなかった主イエスが、なぜヨハネから洗礼を受けられなければならないのでしょ

〈罪人と等しくなられた主イエス〉

主イエスは全く罪のない、悔い改めを必要としないお方であられながらも、しかし罪人の中に入って来られます。罪なき方が、しかし罪人と肩を並べてくださり、罪人の中のひとりとして、罪人と共なる者として、洗礼を受けられたのです。しかも主イエスは、それがふさわしいことであると言ってくださいました。この言葉が、この福音書の中では主イエスが発する最初の言葉として語られています。主イエスは、自ら罪人の中に加わってくださることで、罪人の主となってくださったのです。

〈16節～17節〉

そしてこの主イエスのへりくだりを、父なる神が受け入れられました。ここに主イエスが神の子であるということが、高らかに宣言されます。このお方が、洗礼を受けて水から上がられると、天がイエスに向かって開きました。洗礼は、罪の洗いを通して天国への道を開くものです。神の御子主イエスが、十字架と復活の御業を通して、天への道を開いてくださった。私達は、この主イエス・キリストによって開かれた天への道を、この道のみを通ることによって救われるのです。洗礼とは、天への道を開いてくださったこの主イエス・キリストに結ばれるということです。このキリストを通らないで、キリストによらずに救われる、ということはありません。

〈主イエスと共に受ける祝福〉

主イエスは洗礼を受けられ、ご自身から私たち罪人の中に加わってくださいました。さらに主イエスは罪人と同様に洗礼を受けられたばかりか、さらに私達罪人と堅く結び付けてくださり、罪人が受けなければならない裁きまでも、自ら御自身の身に引き受けてくださいました。私達はキリストにあって、キリストと共に、神の子供とされる。父なる神のことを、今や主イエスと口をそろえて、「アッバ、父よ」と呼ぶことが許されるのです。そして主イエスと共に、神の恵みの相続人となることのできるのです。

洗礼を受ける時、私達は、私達自身のものである以上に、神様のもの、神の霊に導かれる者となるのです。そこで私達は、天から聞こえた神の声、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という呼びかけをも、私達の先頭に立って歩まれるキリストと共に、私達にも向けられている呼びかけとして、それを受け取ることが許されるのです。
(吉岡契典)

テキスト マタイによる福音書3章13～17節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問22、30、71、72、73

〔単元のねらい〕

先週まで続いた旧約の学びを中断し、今日から始まる年度後半は新約の学び、とりわけ主イエス・キリストの生涯を取り扱う。今号では、主イエスの洗礼に始まり、主イエスの福音宣教の初期、そしてアドベント、クリスマスを迎えて、主の降誕の御言葉に耳を傾ける。

マタイによる福音書において、主イエス・キリストの公生涯は4章12節から始まる。今日の御言葉は、その公生涯に先立って、主イエスが洗礼を受けてくださったことを物語る。洗礼とは罪を赦す神の御業の目に見えるしるしであり、洗礼を受けるとは罪人であることを意味する。すなわち、主イエスは、まことの神でありながらもまことの人となられ、しかも罪人と等しくなるまでにへりくだって、罪人の一人として洗礼を受けてくださった。この驚きを分かち合いたい。そして、私たちも信仰を告白して洗礼を受けられる。その洗礼は、私たちを主イエスに結び合わせ、一つとする神の御業である。洗礼によって、主イエスと結び合わせられ、神の子とされる。私たちの歩みがこの洗礼を目指すものであること、洗礼を受けた者として生涯を歩む幸い、それらを分かち合い、共に喜びたい。

「主イエスさまが洗礼を受けられた！」

先週まで旧約聖書の御言葉を学びました。今日からしばらくは、主イエスさまのご生涯をたどって御言葉を聴きます。今日は、主イエスさまが洗礼を受けられた御言葉です。主イエスさまは、ご自身の福音を宣べ伝える御業を始める前に、まず洗礼を受けてくださいました。福音書はそのことを大切に伝えています。

最初に、洗礼について、少し考えてみましょう。ここには、洗礼を受けているお友だちがおり、洗礼を受けていないお友だちもいます。聖書はみんなが洗礼を受けるようにと命じているのですが、わたしたちが受ける洗礼には、いったいどんな意味があるのでしょうか。

洗礼では水を使いますね。水を頭の上にしたたせませす。なぜ水を使うのかというと、洗礼には、よごれを洗い落とすという意味があるのです。水で顔を洗ったり、お風呂に入ったりして、よごれを洗い落としますね。毎日生活する中で、わたしたちの体にはいろいろなよごれがつき、ホコリまみれになりますから、水で洗い流さなければなりません。それは体だけではなく、わたしたちの心

や魂にもよごれがつき、ホコリまみれになってしまうのであって、洗い流さなければなりません。心のよごれ、魂にまわりつくホコリは、水では洗い流せません。神さまが、聖霊の御業によって、よごれやホコリを洗い流してくださいませす。洗礼は、その聖霊のお働きをあらわす、目に見えるしるしです。水が体のよごれを洗い流すように、聖霊がわたしたちの心のよごれを洗い流し、きよめてくださいませす。

ですから、洗礼を受けるとは、心によごれのある罪人であるということなのです。わたしたちは、心によごれがあり、神様から離れて罪を犯す罪人だから、洗礼を受けなければならない。その通りです。わたしたちは罪人なのです。

あれ!? それでは、主イエスさまは、どうして洗礼を受けられたのでしょうか。イエスさまはまことの神さまで、罪のないお方ではなかったのでしょうか。心によごれの無い、父なる神さまにすべて従われた、まったきお方だったのではないのでしょうか。いったいどうして、洗礼を受ける必要があったのでしょうか。

このとき、ヨハネがヨルダン川の川岸で洗礼を受けていました。このヨハネは、主イエスさまの母マリアの親戚であるザカリアとエリサベトの夫婦に与えられたヨハネです。ヨルダン川で洗礼を受けていたので、「洗礼者ヨハネ」と呼ばれます。ヨハネは、主イエスさまの福音宣教の御業に先立って、イスラエルの民に罪の悔い改めを求めるために、神によって遣わされていました。

主イエスさまは、このヨハネから洗礼を受けようとされました。ヨハネは、主イエスさまが自分のところに来たことに、たいへん驚きました。主イエスさまがまことの神さま、罪人の救い主であることに気づいたからです。主イエスさまに洗礼を授けることにとまどい、躊躇して、ヨハネは、「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか」と言いました。主イエスさまに思いとどまるように勧めたのです。主イエスさまは罪のないお方であり、ヨハネは罪人にほかなりません。ヨハネこそ、主イエスさまの洗礼を受けるべきです。これは、その通りなのです。

しかし、このとき主イエスさまは、「今は止めでほしい」とおっしゃって、洗礼を受けさせてほしいと願われました。今はこのことが正しいことなのであるとおっしゃって、ヨハネから洗礼を受けることを求めました。ヨハネは、この主イエスさまの求めに従って、主イエスさまに洗礼を受けました。

まことの神さま、罪なきお方である主イエスさまが、罪人であるヨハネから洗礼を受けたとは、何と驚くべきことでしょうか。しかし、このことには、主イエスさまがへりくだっておられること、まことに罪人の一人となられたことがあらわれています。まさにこの洗礼によって、主イエスさまは、罪ある者の一人に数えられ、罪人と等しくなっ

てくださったのです。主イエスさまの洗礼は、主イエスさまがまことの人であること、そして、ご自身を低くして、罪人の一人に数えられることを引き受けてくださった、そのしるしなのです。

天の御父は、この主イエスさまのへりくだりを喜んで、天から「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と呼びかけられました。主イエスさまのへりくだり、洗礼は、御父の御心になうものでした。罪人の一人となり、罪人の罪を引き受けられるからこそ、まことの救い主なのです。このようなへりくだられた神の御子を、天の御父が喜び、祝福しておられます。

わたしたちも洗礼を受けます。主イエスさまは、洗礼を受けるようにと、わたしたちに命じています。それは、洗礼によって、わたしたちが主イエスさまに結ばれるからです。わたしたちが受ける洗礼とは、主イエスさまの受けられた洗礼なのであって、洗礼によって主イエスさまと一つに結び合わせられるのです。主イエスさまが十字架につけられて死んでくださった、その死に結び合わせられてわたしたちも罪に死にます。主イエスさまが復活された、その復活に結び合わせられてわたしたちも復活するのです。洗礼とは、わたしたちの罪が取り除かれ、きよくされて、主イエスさまと共に生きる新しい命が与えられている、そのしるしです。洗礼を受けるとは、主イエスさまが共にいてくださることにほかなりません。

洗礼を受けてくださったイエスさまに感謝しましょう。そして、わたしたちの教会生活はこの洗礼を目指す歩みであり、洗礼を受けて主イエスさまと一つにされて歩む歩みです。洗礼の恵みに守られて、主イエスさまに結ばれて、生涯を神の祝福を受けて歩みます。みんなが洗礼を受けることをお祈りしています。みんなも、お互いの洗礼のためにお祈りしましょうね。（望月 信）

[今週の暗唱聖句] ガラテヤの信徒への手紙3章26～27節

あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。
洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。

〈ねらい〉

主イエスは全く罪のない神の子でありながら、やがて人々の罪を負うために、人間と同じ立場になられるため洗礼を受けてへりくだられ、私たち罪人が受けなければならない裁きをも身に受けてくださった。

〈展開例〉

1. 教会の礼拝で行われている洗礼の様子を話し、洗礼を受ける意味—私たちは心に汚れのある罪人であり、神様の御霊の御業によってのみ、その汚れがおとせる—を伝える。
2. 本日の聖書箇所に基づき、主イエスがバプテスマのヨハネから洗礼を受けられた時の様子を話す。

3. 主イエスは罪人ではないが、罪人のひとりとなって洗礼を受けられた。このことによって私たちの罪を引き受けて下さるまことの救い主とされた。洗礼を受けてくださった主イエスに感謝しよう。

〈おいのり〉

神様、何の罪もおかしていないイエス様が、私たち人間の罪を身代わりとなって背負い、罪人の一人として洗礼を受けてくださって、私たちの救い主となってくださったことをありがとうございます。小さい私たちもいつか洗礼を受けることが出来るように、神様が助けてください。幼児洗礼を受けている人々に、やがて罪を告白し、キリストを救い主として信じ、信仰告白できるようにしてください。



〈ねらい〉

わたしたちは洗礼の意味と、その恵みをどれほど理解しているでしょうか。洗礼は決して単なる入会儀式ではありません。洗礼は素晴らしい神様の恵みそのものです。子供たちに話す時、少し難しいかもしれませんが、その恵みの意味を共に分かち合いましょう。

〈展開例〉

1. 今日のお話で「洗礼」という言葉が出てきました。洗礼とは一体何でしょう。
→「子どもカテキズム」の問71～73を参考に通して、子供たちと洗礼の意味について話し合ってください。その場合のポイントは、①洗礼は目に見える神様からの恵みの保証であるという点、②洗礼はわたしたちがキリストに結ばれて神の子供とされていることを保証するものである点、③洗礼はわたしたちの罪を洗い流し、罪の赦しを保証するものであるという点、これらの三点を分かりやすく説明してください。
2. どうしたら洗礼を受けることができるでしょうか。
→恵みの契約の下にある幼児洗礼の場合と、自らの意思で信仰告白して洗礼を受ける場合があることを分かりやすく説明する。特に契約の子供と、未信者の子供が共にいる場合は、どちらも素晴らしい神様の恵みであることを強調してください。

3. ヨルダン川でイエス様に洗礼を授けた人は誰ですか。

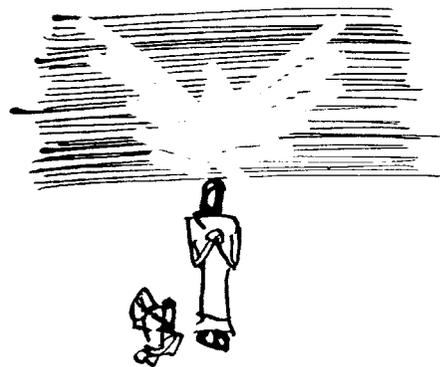
→洗礼者ヨハネはイエス様とどのような関係にあったかを聞いてもよい（ルカ福音書1章を参考にする）。

4. イエス様は神の子で罪の無いお方なのに、どうして洗礼をお受けになったのでしょうか。

→イエス様がわたしたち罪人の友となってくださるためであり、わたしたちを愛し、わたしたちの罪の責任をすべて背負って十字架にかかってくださるためであったことを話してください。

〈おいのり〉

愛する天の神様。イエス様がわたしたちのために洗礼を受けてくださいましたことを感謝します。どうか、わたしたちも神様から洗礼を与えられ、イエス様に結ばれて神様の子供として生きることができるよう導いてください。



これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者

〈ねらい〉

主が洗礼を受けられたことの意味を考える。

〈展開例〉**1. どうしてイエス様が？**

洗礼は罪がゆるされ、洗われたというしるしです。洗礼式の中で必ず聞かれることがあります。それは「あなたは自分が神のみ前に罪人であり、神の怒りを受けて当然の者であることを認めますか」という問いです。私たちが洗礼を受けるのは、清められる必要がある罪人だからです。

しかし、イエス様には罪が全くありませんでした。罪を一度も犯したことがなく、悪いことを一度も思ったこともなかったのです。その聖い神の御子であるイエス様が、どうして洗礼を受けられたのでしょうか。

2. 想像してみよう

バプテスマのヨハネの前には、大勢の人たちが並んでいます。洗礼を授けてもらうために並んでいるのです。

「悔い改めよ」というヨハネの前で、自分が犯してきた罪を告白する人々がいます。自分の中の醜い思いを嘆く人々がいます。神に許しを求める人々がいます。その列の中にひっそりと立たれる方がおられます。罪のない方が、罪ある人たちと共に立っておられるのです。罪人によりそって、自分もその一人であるかのように、洗礼を受ける側に立っておられるのです。

洗礼を授けるべきはずのイエス様が、私たち罪人と同じ側に立ってくださり、罪人の一人のように洗礼を受けてくださったとは何という驚きでしょう。

3. 罪人の側に立たれ、そして罪を負うために

イエス様はご自分を低くして罪人の仲間のようにになり、洗礼を受けてくださいました。そればかりでなく、私たちが受けなければならない裁きを十字架で引き受けてくださいました。

イエス様は洗礼を受けることを、また罪の刑罰である十字架を受けることを、ご自分から引き受

けてくださいました。

イエス様がこのようにして私たちの罪の中に入り込んでくださらなければ、私たちがこちらから救いの扉を開くことはできません。

4. 洗礼の恵み

イエス・キリストにある洗礼を受けるということは、イエス様に結び合わされてイエス様と共に死に、罪から解放されて、よみがえられたイエス様と共に生きることです。

私たちが洗礼を受けるとき、私たちの中に入りこみ、罪を負ってくださったこのイエス様に結び合わされます。イエス様につながる者とされるのです。神様のみ心になれない者が、かなう者とよばれるようになるのです。

私たちの受ける洗礼が、イエス様に結びつけられる洗礼となるために、イエス様ご自身が洗礼を受けてくださったのです。

5. 考えてみよう

ある銀行に銃を持った強盗が押し入りました。銀行員たちは皆、人質として銀行に閉じ込められました。何時間も経ちました。人質の人たちは恐怖と疲労で弱っています。しかし強盗はなかなか人質を解放してくれません。犯人も疲れてイライラしています。このままだと人質の命もどうなるかわかりません。

勇気ある警官の一人がいました。「僕が人質になる。だからみんなを解放してくれ」

その警官は銀行の扉を開けて一人で入ってきました。その人のおかげで人質は皆、解放されました。

- この警官が扉の外側にいながら人質となることができるのでしょうか。
- この警官はどんな気持ちでこう言ったのでしょうか。
- 自分が身代わりになるということは、どういう結果が考えられますか。
- 私たちは何から解放される必要があるでしょうか。

〈今日のカテキズム〉

カテキズムをする前に……

☆参照カテキズムとして、子どもカテキズム問

22 (二性一人格)、30 (キリストとの結合)、71、72、73 (洗礼について) が挙げられています。

☆問30は、洗礼が私たちがキリストに結び合わせ、一つとしてくださる神の御業であることに思いを向けさせてくれます。

問30 神さまの恵みは、どのようにして私たちに与えられますか。

答 聖霊なる神さまが私たちに信仰を与え、私たちが主イエス・キリストと一つに結び合わせてくださることによってです。

☆ではなぜ、あるいは、どのようにして、洗礼は私たちがキリストに結び合わせるのでしょうか。ハイデルベルク信仰問答では問69から問73まで、このことについて述べていますが、ここでは問69と問70を取り上げます。少し長いですが、特に問69は、中学生の皆さんにとってもリアルに実感できる言葉遣いで書かれていますので取り組みやすいのではないのでしょうか。

ハイデルベルク信仰問答

問69 あなたは聖なる洗礼において、十字架上でキリストの唯一の犠牲があなたの益になることを、どのように思い起こしましたか。確信させられるのですか。

答 次のようになります。

キリストがこの外的な水の洗いを制定された時、約束なされたことは、わたしがわたしの魂の汚れ、すなわち、私のすべての罪を、この方の血と霊とによって確実に洗っていただける、ということ、そして、それは日頃体の汚れを落としているその水で、わたしが外的に洗われるのと同じくらい確

実である、ということです。

問70 キリストの血と霊とによって洗われるとは、どういうことですか。

答 それは、十字架上で犠牲においてわたしたちのために流されたキリストの血のゆえに、恵みによって、神から罪の赦しを得る、ということです。さらに、聖霊によって新しくされ、キリストの一部分として聖別される、ということでもあります。それは、わたしたちが次第に罪に死に、いっそう敬虔で潔白な生涯を歩むためなのです。

☆ジュネーヴ教会信仰問答でも、問324で、洗礼の意義は、罪の赦しと霊的更新(新生)であると問答した後、水を象徴として用いることの意味を問325と問326で教えています。特に問326の答が興味深いので、参考までに記します。

ジュネーヴ教会信仰問答

問326 生まれ変わりについてはどうですか。

答 私たちの生まれながらの本性の死滅が生まれ変わりの初めであり、新しい創造物になることがその終わりでありますから、頭に水が注がれることによって死の印が私たちに示され、一方、私たちが水のなかに沈んだままでなく、ただ一瞬の間いわば葬られたようになるだけで、すぐに立ち上がることのなかに新しい命の印が示されます。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	ガラテヤ3:26～27
月曜日	マタイ3:11
火曜日	使徒2:38
水曜日	ローマ6:3～11
木曜日	コリント一2:13
金曜日	ペトロ一3:21
土曜日	ペトロ一1:2